# 教員氏名：藤井一貴（スポーツ教育　学科・専攻／教授・准教授・講師）

## １．教育の責任（何をやっているか）

スポーツ教育専攻に所属し、中学校教諭一種免許状(保健体育)及び高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために履修しなければならない、体育心理学や中等教育事前事後指導を担当している。以下、現在の担当科目の一覧(一部)である。

・基礎ゼミⅠ&Ⅱ

・総合ゼミⅠ&Ⅱ

・教育学研究法Ⅰ&Ⅱ

・体育心理学

・中等教育実習事前事後指導

・授業実践演習(中・高)

・地域スポーツ指導Ⅱ

また、教職サークルでは、教員採用試験を受験する学生の学習のサポートを行っている。

## ２．教育の理念（なぜやっているか）

専門分野を研究する者としての理念

私は体育科教育学を専門としており、「体育実践の改善」、すなわち一人でも多くの児童生徒が良質な体育授業を受けることができるよう、研究に取り組んでいる。

現在、私は教員免許状の取得に必要な科目を担当しているが、その責任の重さを日々痛感している。例えば、指導した学生が教員になり、体育授業において毎年 100 名の児童生徒に授業を行い、さらに 30 年間教員を続けたとする。そうすると、指導した学生を通じて、間接的ではあるものの、3000 名の児童生徒に影響を与えることになる。そのため、学生の背後に、その後学生が指導することになる児童生徒の姿を常に意識し、責任感を持って授業に取り組みたいと考えている。

## ３．教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な教育上の実践や教材の工夫

より確実な学習目標の達成を目指した工夫を、体育心理学の授業を例に示す。

1 点目は、授業において、さまざまな理論などについて実際に検証を行っていることが

挙げられる。例として、「トレードオフ」について取り上げた授業を挙げる。トレードオフとは、野球のピッチャーがスピードを求めるとコントロールが落ち、コントロールを求めるとスピードが落ちるといったように、「何かを得ると、別の何かを失う、相容れない関係」のことを指す。この際、口頭による説明だけではなく、運動課題を用意し、トレードオフが実際に起こるのか検証している。

2 点目は、レポートやテストの点数を学生に必ず開示していることが挙げられる。体育心理学では、3 回のレポート(各 25 点)、期末テスト(25 点)、及び 2 つの提出物(各 8 点)を基に成績を算出している。それぞれの点数は、1 週間以内に採点し、学生にフィードバックを行っている。

3 点目は、レポート課題の様式を工夫していることが挙げられる。体育心理学では、上記で説明したように、理論などについて検証を行い、検証した際に算出されたデータ用いることを、レポート課題の条件としている。また、【背景】、【方法】、【仮説】、【結果】、【考察】、及び【参考文献】の見出しで書くように指示をしている。

## 4．教育の成果（行った結果どうだったか）

学習の成果

以下のグラフは、2024 年体育心理学の評価の分布を示したものである。グラフからも分かるように、おおよそ左右対称の一山分布を示した。「D」評価の学生に関しては、レポートの書式を守れていないこと、あるいは提出物を出し忘れていることが原因として考えられた。すなわち、授業の難易度に問題があるわけではないと考えられた。しかしながら、「D」評価の学生を出さないように、伝達方法等を工夫したいと考えている。

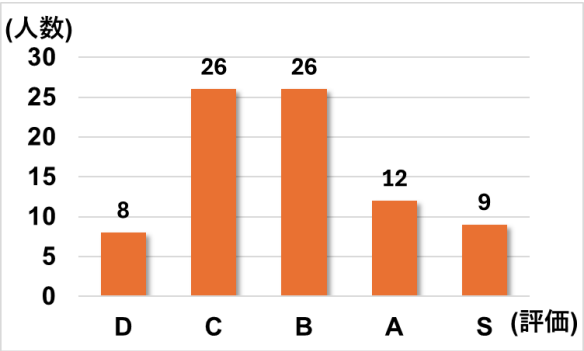



図 1　2024 年体育心理学評価分布

## 5．教育における今後の目標（これからどうするのか）

授業において、単語やその意味について暗記することも重要であると考える。しかし、予測の困難な将来を生きていく上で、他者と協力し合うための社会的スキルを獲得することは、今後さらに重要さを増すと考える。そのため、単語やその意味について暗記に終始する授業ではなく、他者との関わりを多く設定した授業を行っていきたいと考えている。

また、私自身が予測の困難な将来の動向を注視し、学生が時々で求められる能力を獲得できるよう、柔軟に対応していきたい。

【添付資料】　※全部又は一部の現物を省略しています。

1　レポート評価基準

2　授業で使用したパワーポイント(一部)

（2024 年 9 月 2 日現在）

| | 観点 | 説明 | 1点 | 2点 | 3点 | 4点 | 5点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 形式の順守 | 求められる形式で書かれている。 | 求められる形式で書かれていない。 | ー | ー | おおよそ求められる形式で書かれている。 | 求められる形式で書かれている。 |
| B | 主張・論点の理解 | 主張や論点を明確にテーマに沿う形で書かれている。 | テーマに沿わない形で主張や論点が書かれている。 | テーマとの関連が認められるが、明確でない形で書かれている。 | 明確にテーマに沿う形で主張や論点が書かれている。 | 明確にテーマに沿う形で主張や論点が書かれ、伝えたい内容の要点をまとめている。 | 明確にテーマに沿う形で主張や論点が書かれ、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。 |
| C | 論理構成 | 全体を通して、筋道の立った順序で書かれている。 | 筋道の立っていない順序で書かれている。 | 全体を通して、一部筋道の立った順序で書かれている。 | 全体を通して 、筋道の立った順序で書かれている。 | 全体を通して 、筋道の立った順序で書かれている。 | 左記の中でも特に優れているもの。 |
| D | 考察力 | 自分なりの視点をもって書かれている。 | 自分なりの視点が全く書かれていない。 | 自分なりの視点で書かれているが、テーマから乖離している。 | 自分なりの視点で書かれており、テーマとの関連も見られる。 | 自分なりの視点で書かれており、テーマとの関連が明確に見られる。 | 自分なりの視点で十分に書かれており、テーマとの関連が明確に見られる。 |
| E | 表現・文字の正確さ | 誤字・脱字がないこと及び文章の主語・述語が対応して書かれている。 | 誤字・脱字及び文章の主語・述語の非対応が5か所以上見られる。 | 誤字・脱字及び文章の主語・述語の非対応が3～2か所以上見られる。 | 誤字・脱字及び文章の主語・述語の非対応が7か所見られる。 | 誤字・脱字及び文章の主語・述語の非対応が一切見られない。 | 左記に加え、終始一貫した表現を使っている。 |

その他

加点…参考引用文献が正確に引用できており、テーマとの関連も見られる(+5点)※最初の提出時のみ

提出遅れは0点。再提出も認めない。事情がある場合は、前もって相談をする。

再提出では4点が最高点になります。

24前期

体育心理学

# 運動制御における感覚・知覚・認知の役割

担当教員
藤井　一貴

# II.　本授業について

## 1.　授業の目標

- スポーツ心理学と運動制御の関係について理解する。
- 情報処理モデルに基づく
  運動制御メカニズムについて理解する。
- 知覚・認知スキルの発達と
  運動パフォーマンスの関係を理解する。

# 本日の授業の流れ

Ⅰ 運動制御とスポーツ心理学

Ⅱ 感覚・知覚・認知の運動制御

Ⅲ 運動制御における情報処理モデル

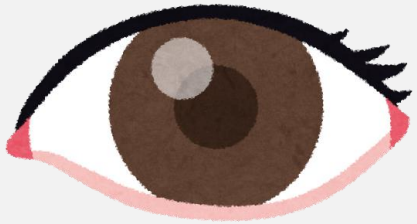
Ⅳ 感覚・知覚・認知と運動パフォーマンス

Ⅴ 感覚・認知スキルの特徴についての理解

# Ⅰ. 運動制御とスポーツ心理学

私たちの生活は「運動制御」によって支えられている!?

腕の制御



眼球の制御

# スポーツ心理学で「運動制御」!?

身体の情報を
「知る」

ボールの状況を
「知る」

身体内外の情報を
心理機能によって
「知る」

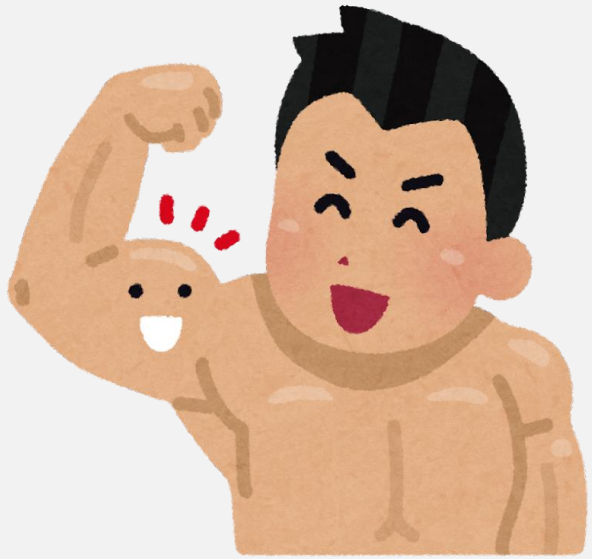
# 今日のキーワード

感覚・知覚・認知の違いは？

# A.感覚・知覚・認知とは

## 固有感覚

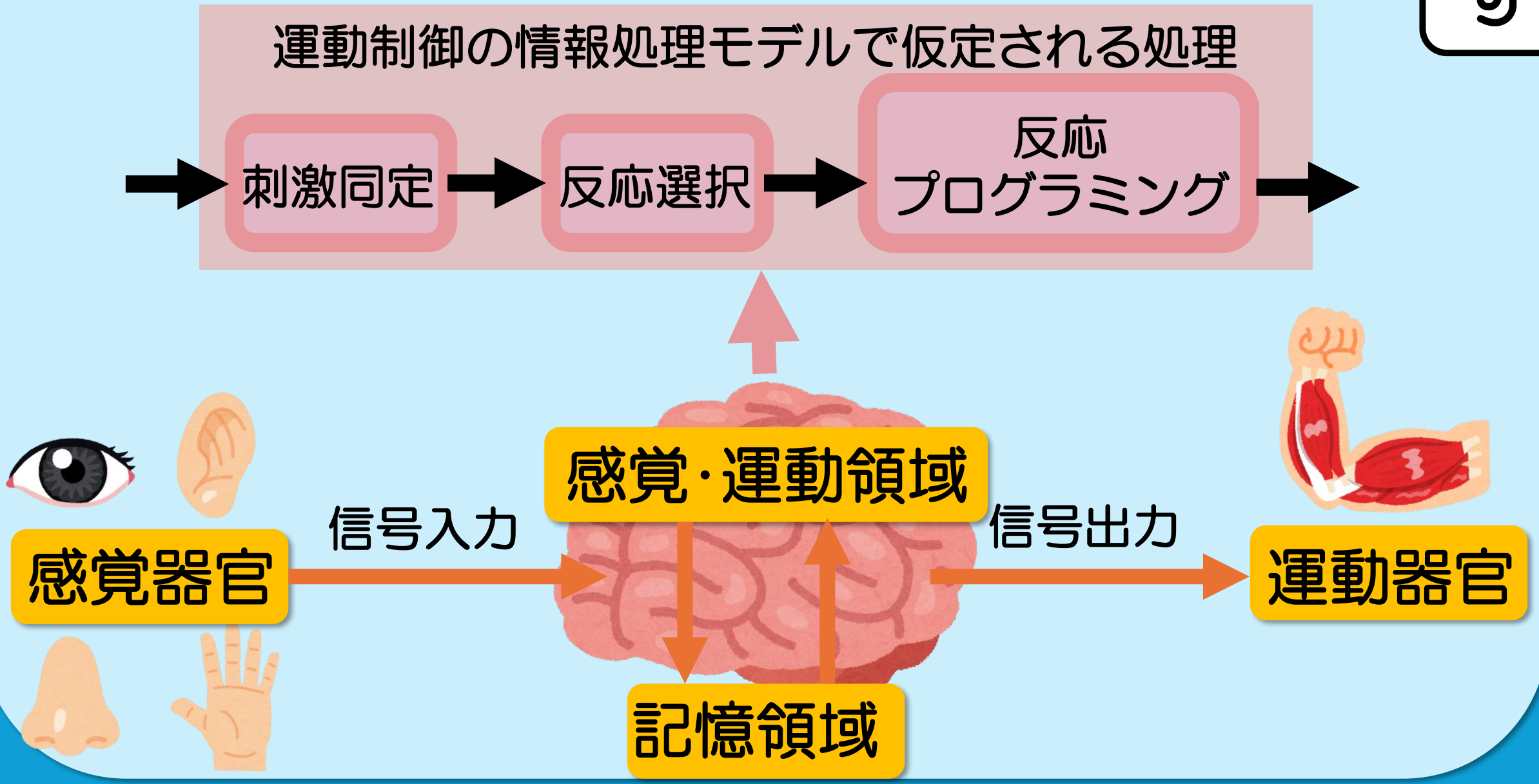
「力の入れ方等」



## 内受容感覚

「内臓の感覚等」

## 外受容感覚

「視覚聴覚等」

# コンピューターを模した人における信号処理